

千葉県船橋市で四季をテーマにした分譲住宅 バイオエタノール暖炉などの新アイテムを提案

千葉県船橋市で四季をテーマにした分譲住宅「リーズン船橋・夏見台 四季の森」(全20戸)の建設を進めている。バイオエタノールを燃料に用いた暖炉などの新アイテムを採用し、四季を感じる演出を施していく。

ポラスグループの中央住宅が建設を進める「リーズン船橋・夏見台 四季の森」は、成熟した高台の住宅地である船橋・夏見台に位置し、徒歩2分のバス停からは船橋駅へアクセスできる。また、近隣には「長津川親水公園」が広がり、自然豊かな住環境を有している。

こうした立地環境を考慮し、「リーズン船橋・夏見台 四季の森」の企画にあたっては、「自然を感じる住まいの具体化を目指した」(戸建分譲設計本部営業企画設計二課 古垣雄一参事)という。

春、夏、秋、冬をテーマにした住宅を具体化

各住戸については、春、夏、秋、冬という異なる4つの季節をテーマにしたスタイルを提案。まず春の家では、「春カフェ」をテーマとして、外観デザインは白を基調にし、花が飾れるようなフラワーボックスも設置する。内観デザインについては、独自に開発した天然由来のミルク塗装とエイジング加工を施した桐材を壁面などに利用し、カフェのような雰囲気を演出する。

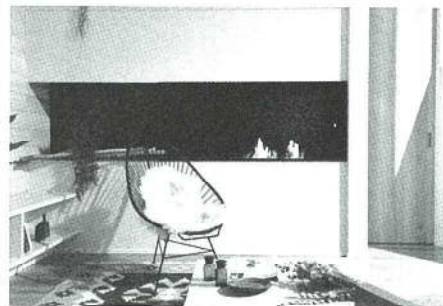
夏の家では「夏ヴィラ」。銘木の風合いを残しながら、細やかなボーダー加工を施した「レリーフ壁」などを活用しながら、ウッドデッキの縁側やインナーバルコニーなども提案する。

秋の家では、「秋アート」をテーマとして、スキップフロアにより作り出した空間を創作活動の場などとして活用する。イタリア産のアート性の高い壁材も採用している。

冬の家では、「冬暖炉」というテーマを掲げ、バイオエタノールを用いる暖炉を導入する。トウモロコシやサトウキビなどを原料につくられたバ



木製の内装材などを活用しながら、「自然感」を演出



冬の家ではバイオエタノールを燃料に用いる暖炉を設置。煙や有害物質が発生しないでの排煙設備を必要としない

イオエタノールを燃料として利用するため、燃焼に伴う有害物質や煙の発生がない。そのため、煙突や換気設備を設置することなく、本物の炎を楽しむことが可能だ。

「暖炉を自宅に設置したいと考えても、薪のコストの問題や煙による周辺とのトラブルなどが気になりあきらめてしまうケースも多い。家庭内で本物の炎を楽しみたいという方々にとっては、バイオエタノール暖炉は非常に喜ばれるのではないか」(戸建分譲設計本部営業企画二課 角張泰広主任)。

同社では、長津川親水公園が近いという立地環境を利用し、入居後に地域のNPOなどと連携しながらネイチャーゲームなどのイベントも開催する方針だ。「リーズン船橋・夏見台 四季の森」の住民だけでなく、近隣の住民にも参加を呼びかけ、新たな分譲地内だけでなく、地域全体のコミュニティ形成に貢献していきたい考えだ。